

長岡工業高等専門学校 令和6年度 年度計画実績報告

令和6年度 年度計画 (高専名:長岡工業高等専門学校)	進捗	達成状況	課題
(1)入学者の確保 ①-1-1 公式ホームページの内容を点検し、中学生向け(保護者をも意識)のコンテンツの更新をはかるとともに英語での情報発信力の強化をはかる。 ①-1-2 市町村の中学校校長会や中学校への訪問活動を行うとともに、中学生と保護者向けの学校紹介資料を送付するなどの広報活動を行う。 ①-1-3 学内運営決定組織と連携し、社会や入試広報対象者に本校の歴史、教育機関としての魅力をアピールしていく。 ①-1-4 県外の本校志願者増を図るため、法人本部主催の国公立高専合同説明会に出展する。	①-1 ホームページへの情報掲載により、中学生向けの情報を発信するとともに、中学校訪問等の広報活動を積極的に行っている。高校説明会への参加やオープンキャンパスの実施等により、長岡高専のアピールを実施した。	◎:既に達成している	
①-2-1 広報戦略室と教務委員会が連携して学校説明会の日程を、6月、8月、10月等の複数回に分散化させて実施する。入学確保のための高専の魅力を伝える。 ①-2-2 本校主催のオープンキャンパスおよび入試説明会を企画・実施する。中学校で開催される学校説明会の参加要請には確実に応え、PR活動を行う。本校教員を小中学校等に派遣する出前授業も行うとともに、小中学校の校外実習や総合学習のための上級学校訪問も積極的に受け入れ、校内見学や体験授業の実施により小中学生に本校の魅力を伝えていく。	①-2-1 広報戦略室と教務委員会が連携した入試説明会等を予定通り開催した。	◎:既に達成している	
①-3 高専の魅力を発信し優秀な志願者を確保するために、長岡市、近隣企業等と連携し、市街地のコワーキングスペース「ミライエ長岡」にて、中学生を対象としたSTEAM教育に関する体験教室を開催する。	①-3 長岡市街地のコワーキングスペース「ミライエ長岡」にて、中学生を対象としたSTEAM教育に関する体験教室を開催。7/27(土)、28(日)に開催した「生成AIによるWebプログラミング」は中学生延べ24名が参加。9/7(土)に開催した「アート×テクノロジー LED照明を使ったアートに挑戦!」は中学生9名が参加。11/16(土)、17(日)に好評であった「生成AIによるWebプログラミング」を再度開催した。	◎:既に達成している	
②-1 ダイバーシティ推進室のホームページや女子生徒向け冊子を活用するとともに、高専GCONなどの機会を通じて女子中学生への広報活動を進める。また、本校に適正を持つ女子中学生の獲得に向けて、オープンキャンパスや学園祭、出前授業などの機会を通じて女子中学生向けの進路相談会や科学体験・講演会を実施する。	②-1 ホームページを活用して情報発信を行っている。また、「長岡高専ガール」をオープンキャンパスや出前授業で配布し、広報活動を進めた。また、高専GCONに2チームエントリーし、本選出場を目指した。また、ナガオカエンジニアガールズの組織を活用して、オープンキャンパスにて女子中学生を対象としたブースを出展した。学園祭ではポスター掲示および工作教室を実施した。さらに、女子中学生向け出前授業を6月15日(土)に開催し、計18名(男子生徒含む)が参加した。	◎:既に達成している	・ダイバーシティ推進行動計画を達成するためには、女子中学生向けの進路相談会に特化した取り組みを行う必要がある。また、女子中学生およびその保護者を限定としたオープンキャンパスの開催も効果的と考えている。
②-2-1 海外との交流活動は随時ホームページに掲載するとともに、適宜SNS等を活用する。 ②-2-2 公式ホームページの英語版の内容を点検し、コンテンツの更新と充実をはかる。英語版の学校紹介動画コンテンツやプレゼンテーション資料の活用をはかる。	②-2-1 海外との交流活動は、活動終了後本校ホームページに掲載している。また、適宜SNS等を使用し、本校の国際交流活動をアピールしている。 ②-2-2 本校ホームページの英語版の内容を点検し、今後更新を行う。学校紹介動画コンテンツの更新は、本年度は見送る。	×:年度末時点で達成できない	動画コンテンツの更新には、多額の費用が発生するため来年度以降の課題とする。
③-1 高専教育にふさわしい十分な資質、意欲と能力を持った多様な入学者を確保するために、入試の選抜方法と選抜基準の見直しに着手する。また、受験生の負担軽減と利便性に繋がる「最寄り地受験」制度を広報することで、その定着を図るとともに、学力検査における「複数校志望受験制度」の推進についても他高専と情報交換を行う。	③-1 県内で開催した長岡高専入試説明会において、受験生の負担軽減と利便性に繋がる「最寄り地受験」制度を広報し、その定着を図った。他高専の教務主事と、学力検査における「複数校志望受験制度」の推進について情報交換を行った。中学生人口が確実に減少する中で、有意義な制度であるとの共通認識を得た。	◎:既に達成している	

長岡工業高等専門学校 令和6年度 年度計画実績報告

令和6年度 年度計画 (高専名:長岡工業高等専門学校)	進捗	達成状況	課題
③-2 本校のこれまでの対応事例を取りまとめ、障害がある受験生に対しては申し出に基づき情報提供を行い、受験時の合理的配慮について検討する。	③-2 障害がある受験生に対しては、申し出に基づき情報提供を行い、受験時の合理的配慮について検討した。	◎:既に達成している	
(2)教育課程の編成等 ①-1-1 Society 5.0で実現する、社会・経済構造の変化や技術の高度化、デジタル人材育成、地域課題解決等の社会・産業・地域ニーズに応じた高専教育の高度化・国際化をより一層進展させるため、教務主事が所管する4つのワーキンググループ(グローバルエンジニア育成事業WG、COMPASS5.0事業WG、スタートアップ教育WG、AIR Tech WG)を編成した。教学企画部会において、MDASH応用基礎レベルの次年度申請の方針が決定され、その具体的な内容をAIR Tech WGが検討し、教務委員会です承された。来年度申請予定である。	①-1-1 社会ニーズに応じた高専教育の高度化・国際化をより一層進展させるため、教務主事が所管する4つのワーキンググループ(グローバルエンジニア育成事業WG、COMPASS5.0事業WG、スタートアップ教育WG、AIR Tech WG)を編成した。教学企画部会において、MDASH応用基礎レベルの次年度申請の方針が決定され、その具体的な内容をAIR Tech WGが検討し、教務委員会です承された。来年度申請予定である。	◎:既に達成している	
①-1-2 COMPASS5.0事業・半導体分野の実践校として、産業界との連携を通じた次世代基盤技術教育の高度化を推進する。また、令和4年度補正予算事業で整備した起業家工房等を活用したアントレプレナーシップ教育や、社会実装教育を実践する。	①-1-2 COMPASS5.0事業・半導体分野の実践校として、拠点校が主催するセミナーに参加。半導体に関する現行カリキュラムの分析を行った。起業家工房を活用すべく、担当教員がCOMPASS5.0事業IoT分野が主催したスタートアップ教育に関するワークショップに参加し、情報収集を行った。後期開講の第4学年自己啓発型課題学修等で社会実装型教育を実践している。	◎:既に達成している	
①-2 専攻科における連携教育やダブルディグリープログラムなど様々な教育プログラムに適応した4学期制カリキュラムの改善を行う。	①-2 長岡技科大との連携教育プログラムで派遣学生が2年目を迎え、単位履修も順調であることを確認できている。フィンランドへのトゥルク応用科学大学とのディグリープログラムの受け入れ留学生3名の単位取得と高専単位認定証明を発行できた。8月末から、長岡高専専攻科生2名がフィンランドへのトゥルク応用科学大学に行き、学位取得に向け、留学中である。	◎:既に達成している	長岡技科大連携教育の志願者が次年度は0名となる。連携教育のカリキュラム作成に長岡高専と長岡技科大の両教員が関与するが、その作業の煩雑さ及び連携教育履修学生の授業履修の多さに課題感を感じる。
②-1 フィンランドのトゥルク応用科学大学とのディグリープログラム、シンガポールナンヤンポリテクニクへの単位修得型海外研究室派遣留学制度を継続して進める。海外協定校と連携し、「トビタテ！留学JAPAN」やJASSO支援等を活用した学生の海外留学を推進する。アントレプレナーに関わる教科科目の受講を推奨し、ブロック内開催予定の課題解決型GlobalCampへも参加を促す。	②-1 シンガポールナンヤンポリテクに2名の専攻科生が3ヶ月の短期留学を行い、その派遣にJASSO支援を活用している。フィンランドへのトゥルク応用科学大学において長岡高専専攻科生がビジネス系科目を履修し、学位取得を目指すなど、専攻科生の海外展開と絡めたアントレプレナーシップ教育も長岡高専専攻科教育として開始された。 ・本年度は、フィンランドのトゥルク応用科学大学とシンガポールのナンヤンポリテクニクへ合計6名の学生を研究室派遣できた。	◎:既に達成している	
②-2 第5期グローバルエンジニア育成事業に申請した「続・Nagaoka CO-CORE Visionに基づく実践力を備えたグローバル人財の育成」事業を推進する。事業1年目にあたるR6年度は、従前の取組を継続するとともに、以下の事項に取り組む。 (1)第1学年にキャリアデザインⅠを新設。既設科目の英語IC～ⅢC、英語多読や、英語科目履修免除制度を継続実施 (2)トゥルク応用科学大学(TUAS)との専攻科高度化プログラム関係科目、実験テキストの部分英語化の検討 (3)海外学術交流協定校の拡充を検討。夏季、春季に派遣研修を実施 (4)教員を対象としたグローバル研修(海外派遣等)を実施	②-2 第5期グローバルエンジニア育成事業に申請した「続・Nagaoka CO-CORE Visionに基づく実践力を備えたグローバル人財の育成」事業を推進している。以下の事項は既に実施済みである。 (1)第1学年にキャリアデザインⅠを新設。既設科目の英語IC～ⅢC、英語多読や、英語科目履修免除制度を継続実施 (2)トゥルク応用科学大学(TUAS)との専攻科高度化プログラム関係科目、実験テキストの部分英語化を実施 (3)海外学術交流協定校の拡充を検討。夏季、春季に派遣研修を実施 (4)教員を対象としたグローバル研修(オンライン英会話等)を実施	◎:既に達成している	

長岡工業高等専門学校 令和6年度 年度計画実績報告

令和6年度 年度計画 (高専名:長岡工業高等専門学校)	進捗	達成状況	課題
③-1-1 全国高等専門学校体育大会や全国高等専門学校ロボットコンテストなど各種コンテストへの積極的な参加を支援する。 ③-1-2 大会等で顕著な成績をあげた学生に対して表彰を行う。	③-1-1 各高専体育大会・コンテストにおいて優秀な成績を収めた学生に対しては、始業式及び後期授業ガイダンスにおいて報告会を行い、卒業式では在学中に優秀な成績を収めた学生に対して表彰を行った。	◎:既に達成している	
③-2 ボランティア活動への参加を推奨するとともに、顕著な活動を行った学生及び学生団体の顕彰を行う。	③-2 後期授業ガイダンスにおいて、善行のあった学生に対して表彰を行った。	◎:既に達成している	
③-3 学生に「トビタテ!留学JAPAN」やJASSO支援の制度等を積極的に紹介し、学生の海外留学を促進する。海外活動等に学生が参加する機会の拡充を図るために、夏季海外派遣研修に加えて春期海外派遣研修を実施する。各ブロックで開催予定のKOSEN Global Camp に本校の学生が参加するよう促す。	③-3 海外留学は、JASSO支援の制度を利用し、今年度は2カ国に計6名の学生が留学した。夏季海外派遣研修には、計62名の学生が参加した。春期海外派遣研修には、計20名の学生が参加した。	◎:既に達成している	
(3)多様かつ優れた教員の確保 専門科目担当教員の公募は、従来と同様に「博士の学位を有するもの、または着任までに取得見込みのもの」として明記する。原則として博士学位を有するものを採用する。具体的な数値目標は以下の通りとする。 ①-1 多様な背景を持つ教員組織とするため、教員採用の公募制を継続する。採用された学校以外の高等専門学校や大学、高等学校、民間企業、研究機関などにおいて過去に勤務した経験を持つ者、又は1年以上の長期にわたって海外で研究や経済協力に従事した経験を持つ者を幅広く採用する。 ①-2 教員採用においては、専門科目及び理系一般科目については博士の学位や技術士を有する者、理系以外の一般科目については修士以上の学位を有する者を公募により採用する。専任教員のうち、この要件を満たす教員の比率を、専門科目及び理系一般科目担当の教員について90%、理系以外の一般科目担当の教員については85%を下回らないようにする。	①-1 今年度教員公募を実施し採用した1名については他機関勤務経験を持つ者となる。 ①-2 専門科目(理系一般科目)担当教員について、博士の学位や技術士を有する者の割合は94.8%である。 理系以外の一般科目の教員について、修士以上の学位を有する者の割合は100%である。	◎:既に達成している	
②-1 クロスアポイントメント制度での双方向異動での課題とその対策を検討する。本制度での受入れについて検討する。	②-1 複数の教員公募を行ったが、令和7年度当初採用者が1名に留まり、クロスアポイントメントへの流動的な配置の検討に至らなかった。	×:年度末時点で達成できない	令和6年度中または令和7年度当初採用として、7件の教員公募を実施したが、採用に至ったのは2件に留まった。今年度退職者の欠員補充も含め、教員の確保が課題となっている。
②-2 スタートアップ事業やリカレント事業等に係わる教育研究を促進し、民間で活躍する人材を活用する。1名以上を採用する。	②-2 スタートアップ支援の専門家を2名、コンクリートメンテナンスにかかるリカレント事業について1名の民間人材を採用した。	◎:既に達成している	
③ ライフステージに応じた定期的な懇談会の開催やアンケートを実施し、職場環境に関する情報共有や改善提案の収集に努める。ダイバーシティ事業を活用し、女性教員の働きやすい環境整備を継続的に進める。	③ 教職員懇談会を12月に2回開催した。「働き方改革」にスポットを当て、公私問わず日頃教職員が課題に感じていることや工夫していること、ライフハック・ワークハックを話し合い、共有する機会とした。JSTダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)本事業の取組にて相談員の配置(長岡技科大との共同利用)、研究補助員制度、ライフイベント復帰支援制度を構築し、運用した。	◎:既に達成している	

長岡工業高等専門学校 令和6年度 年度計画実績報告

令和6年度 年度計画 (高専名:長岡工業高等専門学校)	進捗	達成状況	課題
④ 学内における多文化共生(ダイバーシティ)の取組を推進し、様々な文化的背景を持つ多様な人材(例えば外国籍人材など)が公募に応じやすくなるような環境を整える。	④ 今年度実施した教員公募において、2名の外国人から応募があった。	◎:既に達成している	
⑤ 長岡技術科学大学及び豊橋技術科学大学ほか、国立高等専門学校の教員人事交流について、教員の意向を伺い、環境整備に努める。	⑤ 複数の教員公募を行ったが、令和7年度当初採用者が1名に留まり、人事交流の希望を出しやすい環境を整えることができなかった。	×:年度末時点で達成できない	令和6年度中または令和7年度当初採用として、7件の教員公募を実施したが、採用に至ったのは2件に留まった。今年度退職者の欠員補充も含め、教員の確保が課題となっている。
⑥ 教育、学生支援、研究等における教員の教員コンピテンシーを向上させるために、職務別目的別に学校の枠を超えて情報収集を行うとともに、「他高専」が実施するFD研修への参加を検討する。また他高専からの参加を呼びかける技術職員研修会を実施する。	⑥ 校内において教学マネジメントをはじめ目的別のFD研修を計画、実施した。技術職員研修会については、本校が当番校となり東日本地域特別研修会を開催した。	◎:既に達成している	
⑦ 教務主事や学生主事らによる推薦を経て、全学的な事業や教育改革等へ貢献した教員や教員グループを教員表彰制度により表彰する。	⑦ 第5期グローバルエンジニア育成事業に申請した「続・Nagaoka CO-CORE Visionに基づく実践力を備えたグローバル人材の育成」事業を推進している。以下の事項は既に実施済みである。 (1)第1学年にキャリアデザインⅠを新設。既設科目の英語IC～ⅢC、英語多読や、英語科目履修免除制度を継続実施 (2)トウルク応用科学大学(TUAS)との専攻科高度化プログラム関係科目、実験テキストの部分英語化を実施 (3)海外学術交流協定校の拡充を検討。夏季、春季に派遣研修を実施 (4)教員を対象としたグローバル研修(オンライン英会話等)を実施	◎:既に達成している	
(4) 教育の質の向上及び改善 ① 社会ニーズ等を踏まえた特色ある教育の強化を図るため、数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度における応用基礎レベルの申請準備を進める。また、産業界や行政と連携して、COMPASS5.0事業・半導体分野の実践校として社会ニーズに対応したカリキュラムを検討する。国立高等専門学校のスケールメリットを活かすため、COMPASS5.0事業における数理・データサイエンス・AI分野の拠点校や半導体分野の拠点校が取りまとめた関連教材の活用を検討する。カリキュラム検討の際には、高専教育の高度化・特色化に向けて整備されたMCCplusを活用することで社会ニーズに合わせた教育内容とする。教育指導の質の向上を図ることを目的とした全学FD研修会を1回開催する。 教育の質の向上及び改善のための教学マネジメントは、PDCAのCheck、Actionを担う高専教育高度化戦略室と教務主事が連携して推進する。学内における教学マネジメントの定着化、充実化を図ることを目的とした全学FD研修会を1回開催する。	① ・教務主事所管のAIR Tech WGが主導し、MDASH応用基礎レベルの来年度申請の準備を進めた。 ・COMPASS5.0事業・半導体分野の実践校として、半導体に関する現行カリキュラムの分析を行った。 ・3/25(火)13:00-16:00に全学FD研修会として教務カンファレンス2025を開始し、入試や低学年における補習の在り方について意見交換を行った。 ・教学マネジメントを進めるためのデータベースを更新し、統計データに基づく経年の比較を行った。また、11月に科目の評価点に関する全学FD研修会の実施を行い、今後の評価の方向性の議論を行った。	◎:既に達成している	
② 令和3年度の高等専門学校機関別認証評価の結果、令和4年度の国立高専教育国際標準(KIS)の評価結果、令和5年度のJABEE(日本技術者教育認定機構)の評価結果を受けて、課題等の改善と継続的な自己点検を行い教育・研究の質の保証及び向上に努める。	② 令和3年度の高等専門学校機関別認証評価の結果、令和4年度の国立高専教育国際標準(KIS)の評価結果、令和5年度のJABEE(日本技術者教育認定機構)の評価結果を受けて、全学的に改善を進めている。	◎:既に達成している	

長岡工業高等専門学校 令和6年度 年度計画実績報告

令和6年度 年度計画 (高専名:長岡工業高等専門学校)	進捗	達成状況	課題
③-1-1 地域や産業界が直面する課題解決を目指した課題解決型学習(PBL (Project-Based Learning))の典型例として本校のJSCOOPを継続的に推進する。具体的には、これまでJSCOOPに協力する地域企業は建設関係の企業が多かったが、本年度は本校技術協会と連携し、建設業以外の業界からのJSCOOPへの参画をより一層促進し、学生が取り組む課題の多様化を図る。 ③-1-2 STEAM教育の高度化を図るため、照明器具製品を取り扱う企業と連携した「ILUUMME ひかりのワークショップ」を開催する。光×アート×デザインの観点からILLUME(光デバイス)をスクラッチ等で制御するSTEAM教育である。また、当該企業のCSRの一環として、地域の小中学生向けにSTEAM教育を実践できる「ILLUME ひかりのワークショップ」講師を養成するインターンシップを企画する。	③-1-1 本年度のJSCOOPに参画する企業は64社となり、学生が取り組む課題の多様化が進んでいる。 ③-1-2 照明器具製品を取り扱う企業のCSRの一環として、地域の小中学生向けにSTEAM教育を実践できる「ILLUME ひかりのワークショップ」講師を養成するインターンシップを企画し、実践した。	◎:既に達成している	
③-2 企業と連携した教育コンテンツ(JSCOOP)の開発(改良)を推進しつつ、課題解決能力、コミュニケーションなどの人間基礎力を養う共同教育を実施する。また、企業と連携した地域企業を知る講座等の共同教育を実施する。	③-2 ・地域産業と技術の理解を目的として、学生が企業訪問と取材をととしJSCOOP(企業のPR原稿作成)を実施した。 ・地域企業が抱える問題を学科・専攻科横断の混成チームで解決するJSCOOP(課題解決プログラム)を地域企業と連携し実施した。	◎:既に達成している	JSCOOP(課題解決プログラム)は選択科目であるため、受講生(特に専攻科生)の確保が課題である。年度初めに専攻科入学者へのガイダンスで履修を促していく。
④-1 長岡技術科学大学をはじめとする市内4大学、長岡商工会議所、長岡市とで2017年に設立したNaDeC構想に関するコンソーシアム推進会議を定期的開催し、協働教育等の有機的な連携を更に推進する。	④-1 ・長岡技術科学大学をはじめとする市内4大学、長岡商工会議所、長岡市とで2017年に設立したNaDeC構想に関する学長・校長レベルの連絡会を定期的開催している。 ・NaDeCコンソーシアムのもと、市内4大学1高専における協働教育および産学連携を進めた。12月10日に企業や高専・大学の技術シーズなどを紹介し興味のある分野の出展者同士をつなぐMatching HUB Nagaokaを開催した。	◎:既に達成している	
(5)学生支援・生活支援等 ① 各国立高等専門学校の学生相談体制の充実のため、カウンセラー及びソーシャルワーカー等の専門職の配置を促進する。また、各国立高等専門学校の学生支援担当教職員に対し、いじめ防止や障害を有する学生への支援等、学生支援に関して、外部専門家や関係機関・専門機関等の協力を得て、最新の知見や具体的事例等に基づいた実効性のある研修等を実施する。	① ・学生相談体制の充実のため、カウンセラーを配置している。 ・全教職員に対していじめ防止に関する研修を実施した。	◎:既に達成している	
② 高等教育の教育費負担軽減に伴う奨学金制度については、法人本部との情報共有を推進する。また、ホームページ及び刊行物等で広く保護者等にも通知する。	② 国立高専機構本部事務局学務課からは、奨学金制度に係る日本学生支援機構、文部科学省、奨学金拠出元からの通知等の種々連絡を受け確認し、TeamsやH.P.等で学生・保護者に連絡している。	◎:既に達成している	令和7年度から修学支援新制度と付随する授業料等減免に係る法改正が予定されているため、改正内容に応じた周知・取扱いに漏れ・混乱が無いようにする。

長岡工業高等専門学校 令和6年度 年度計画実績報告

令和6年度 年度計画 (高専名:長岡工業高等専門学校)	進捗	達成状況	課題
③ 令和6年度に新設したキャリア支援室を窓口とし、関係部署と連携してキャリアカフェにて企業情報、就職・進学情報、個別相談の場を提供し、さらに就職・進学に関するセミナーを定期的開催する。長岡高専入学から卒業までのキャリア形成プロセスを一貫した手引書「キャリアガイド」を配布し、キャリアデザイン科目で活用する。また、卒業・修了時アンケートにキャリア支援も含めた満足度項目を追加し、教育改善に活用する。	③ キャリア支援室を新設し、企業情報、就職・進学情報、個別相談の場を提供している。関係部署と連携し、求人票電子化システムの導入を開始した。さらに、進路選択に関するセミナーを5、8、10、12、2、3月に開催した。また、「キャリアガイド」を学生に配布し、キャリアデザイン科目で活用している。卒業・修了時アンケートにキャリア支援も含めた満足度項目を追加した。アンケート集計後に今後の教育改善の方針を確認する予定である。	◎:既に達成している	・キャリア支援室の充実が課題となっている。具体的にはスペースの確保、書類棚の設置等である。学生への就職・進学情報、企業情報を提供するためには十分な空間が必要となる。 ・既存の授業・学校行事(インターンシップ、工場見学、見学旅行、等)のキャリア形成における位置づけをより明確に、共通認識として確立する必要がある。 ・就職担当への直接のアポイントメントが多いため、キャリア支援室(コーディネーター)による調整が必要だと思われる。
1. 2 社会連携に関する事項 ① 教員プロフィール集、長岡高専技術協力会法人会員企業技術シーズ集の拡充を図り、印刷物、ホームページ等を通じて発信する。	① 2024年9月に2024年度版教員プロフィール集(冊子版、ウェブ版)を公開した。技術シーズ集についても準備を進めている。	◎:既に達成している	
②-1 技術協力会から活動資金を得てコーディネーターを雇用する。コーディネーターが中心となり、地域企業や自治体等のニーズ及び教員シーズを把握し、技術相談、受託研究、共同研究活動をより一層促進する。 ②-2 コーディネーターを中心に高専間連携のより一層の緊密化を図るとともにラボツアー等の教員技術シーズと地域企業のニーズをマッチングするイベントを開催し、同研究、受託研究の受け入れを促進する。	②-1 技術協力会の活動資金から5名のコーディネーターを雇用し、地域企業や自治体等のニーズ及び教員シーズを把握し、技術相談、受託研究、共同研究活動を推進する体制が整備されている。 ②-2 9月にラボツアー(定員30名程度)を実施し、5つの研究室の紹介を行った。また、オンラインによる教員の技術シーズ交流会を実施し、現在までに3学科9名の技術シーズを技術協力会会員企業に行った。	◎:既に達成している	
③-1 令和4年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点と開催の必要性などから総合的に判断して中止したが、令和6年度は報道機関のニーズを聞きながら令和元年度のような「記者懇談会」の企画・開催を検討する。	③-1 4月以降から現時点まで、地域連携活動や学生活動、学校行事、国際交流等に関する記事を本校Webサイトにおおよそ140件程度掲載した。加えて公式YouTubeチャンネルでは学生行事や学校紹介などの情報を発信し、再生回数も少しずつ伸びている。また、プレスリリースは本校発信のものも含めて5件行っている。本校に係るメディア掲載・放送等については、今年度分の報告はすでに実施した。	◎:既に達成している	
③-2 これまでと同様に、大きなイベントや学生・教職員の目覚ましい活躍などについては本校Webサイトに記事を掲載するとともに、程度・必要に応じ積極的にプレスリリースを行う。また、動画を積極的に活用するなど広報手段の改善を図ると共に本校が関係する報道情報収集に努め、新聞やテレビ等のメディアに記事掲載等のあった際は、報道内容及び報道状況について随時法人本部に報告を行う。	③-2 4月以降から現時点まで、地域連携活動や学生活動、学校行事、国際交流等に関する記事を本校Webサイトにおおよそ140件程度掲載した。加えて公式YouTubeチャンネルでは学生行事や学校紹介などの情報を発信し、再生回数も少しずつ伸びている。また、プレスリリースは本校発信のものも含めて5件行っている。本校に係るメディア掲載・放送等については、今年度分の報告はすでに実施した。	◎:既に達成している	

長岡工業高等専門学校 令和6年度 年度計画実績報告

令和6年度 年度計画 (高専名:長岡工業高等専門学校)	進捗	達成状況	課題
④-1 高専の魅力を発信し優秀な志願者を確保するために、長岡市、近隣企業等と連携し、市街地のコワーキングスペース「ミライエ長岡」にて、中学生を対象としたSTEAM教育に関する体験教室を開催する。 ④-2 県や市と連携し、現在実施しているリカレント講座の更なる拡充を図る。	④-1 中学生を対象としたSTEAM教育として、長岡市、近隣企業と連携した「ILUUMME ひかりのワークショップ」を9/7に開催した。 ④-2 python講座、英語講座、人材採用等、33講座を企画した。また、県内高等教育機関と協力し、農業分野におけるリカレント講座の調査を進めている。	◎:既に達成している	
1. 3 国際交流等に関する事項 ①-1 マレーシア在日本国大使館やJICAマレーシア事務所との組織的・戦略的な連携の下に、マレーシア政府人的資源省傘下のJMTI及びADTCE校の支援に取り組む。	①-1 令和6年9月初旬、学生15名を引率してADTEC Melakaを訪問し、ものづくり学生交流を行った。	◎:既に達成している	
①-2 モンゴル3高専の支援を継続して行う。	①-2 新モンゴル高専と令和6年10月に、協定及びMOUを締結した。	◎:既に達成している	
①-3 タイ高専の支援を継続して行う。	①-3 KOSEN-KMITL及びKOSEN KMUTT から計4名の学生を受入中である。内1名は、本校卒業後日本国内の大学へ進学予定。	◎:既に達成している	
①-4 必要に応じ、モンゴル3高専の支援とタイ高専支援の経験を生かして、適切な助言を行う。	①-4 日越KOSENシンポジウムへの参加がかなわなかった。	×:年度末時点で達成できない	対応できる状態にあったが、機会が無かった。
①-5 必要に応じ、モンゴル3高専の支援とタイ高専支援の経験を生かして、適切な助言を行う。	①-5 高専機構本部から助言を求められなかった。	×:年度末時点で達成できない	対応できる状態にあったが、機会が無かった。
①-6 諸外国の政府関係者、教職員の訪問を積極的に受け入れて、「KOSEN」の教育制度の紹介に努める。	①-6 キルギス共和国の大学関係者4名が本校を訪問し、高専教育の説明を受け、学内視察を行った。タイMHESI次官ほか関係者14名が、高専教育視察のため本校を訪問し、研究室見学等を行った。	◎:既に達成している	
①-7 本校で国立高専教育国際標準(KIS)を受審した際の経験を活かして、適切な助言を行う。	①-7 高専機構本部から助言を求められたら、いつでも対応できる状態にある。	×:年度末時点で達成できない	協力の依頼があつてはじめて行動に移せる。
② 本校で取り組んでいるモンゴル3高専支援活動とタイ高専支援活動を通じ、校内における教職員・学生の国際化を進めていく。	② モンゴル3高専の機械系教員の研修を担当している。	◎:既に達成している	
③-1 海外協定校のフィンランド・トゥルク応用科学大学とのディグリープログラム、シンガポールナンヤンポリテクニクへの単位修得型インターンシップ派遣を継続して進める。海外協定校と連携し、「トビタテ！留学JAPAN」やJASSO支援等を活用した学生の海外留学を推進する。アントレプレナーに関わる教科科目の受講を促す。	③-1 海外協定校のフィンランド・トゥルク応用科学大学とのディグリープログラムに、本校学生1名が取組中である。トゥルク応用科学大学のインターンシップに、本校学生4名が取り組んだ。シンガポールのナンヤンポリテクニクへのインターンシップに、本校学生2名が取り組んだ。	◎:既に達成している	

長岡工業高等専門学校 令和6年度 年度計画実績報告

令和6年度 年度計画 (高専名:長岡工業高等専門学校)	進捗	達成状況	課題
③-2 第5期グローバルエンジニア育成事業に申請した「続・Nagaoka CO-CORE Visionに基づく実践力を備えたグローバル人財の育成」事業を推進する。事業1年目にあたるR6年度は、従前の取組を継続するとともに、以下の事項に取り組む。【再掲】 (1)第1学年にキャリアデザインⅠを新設。既設科目の英語IC～ⅢC、英語多読や、英語科目履修免除制度を継続実施 (2)トウルク応用科学大学(TUAS)との専攻科高度化プログラム関係科目、実験テキストの部分英語化の検討 (3)海外学術交流協定校の拡充を検討。夏季、春季に派遣研修を実施 (4)教員を対象としたグローバル研修(海外派遣等)を実施 また、アントレプレナーに関わる教科科目の受講を推奨し、ブロック内開催予定の海外学生とのアントレプレナー型GlobalCampへも参加を促す。	③-2 第5期グローバルエンジニア育成事業に申請した「続・Nagaoka CO-CORE Visionに基づく実践力を備えたグローバル人財の育成」事業を推進している。以下の事項は既に実施済みである。 (1)第1学年にキャリアデザインⅠを新設。既設科目の英語IC～ⅢC、英語多読や、英語科目履修免除制度を継続実施 (2)トウルク応用科学大学(TUAS)との専攻科高度化プログラム関係科目、実験テキストの部分英語化を実施 (3)海外学術交流協定校の拡充を検討。夏季、春季に派遣研修を実施 (4)教員を対象としたグローバル研修(オンライン英会話等)を実施	◎:既に達成している	
③-3 学生に「トビタテ! 留学JAPAN」やJASSO支援の制度等を積極的に紹介し、学生の海外留学を促進する。海外インターンシップのほか、海外活動等に学生が参加する機会の拡充を図るために、夏季海外派遣研修に加えて春期海外派遣研修を実施する。各ブロックで開催予定のKOSEN Global Camp への参加を促す。	③-3 春期海外研修は、本年度からの新たな取り組みとして、アメリカとシンガポールへ学生を派遣した。	◎:既に達成している	
④-1 国際交流推進センターと広報戦略室の連携を強化し、公式ホームページの英語版の内容を点検し、本校が取り組む次世代人材育成プログラムに関するコンテンツの更新と充実を図る。英語版の学校紹介動画コンテンツやプレゼンテーション資料の活用を図る。各ブロックで開催予定のKOSEN Global Camp に本校の学生が参加するよう促す。日本語教育等の支援、留学生の受け入れも継続する。	④-1 ・ホームページの英語版コンテンツ更新について、今後着手予定である。 ・KOSEN KMUTTからの本科3年次への外国人留学生の受入を本校としては初めて行った。外国人留学生に対する教育効果を一層高めるため、日本語教育をはじめとする支援を行った。	×:年度末時点で達成できない	動画コンテンツの更新には、多額の費用が発生するため来年度以降の課題とする。
⑤ 互教員や学生の国際交流の際は、「海外留学に関する危機管理ガイドライン」に準じた危機管理措置を講じ海外旅行保険に加入させる等の配慮を行う。東京出入国在留管理局に対する留学生在籍者報告を遅滞無く行い、その際本学に在籍する留学生の在籍状況・資格外活動取得状況を把握する。	⑤ ・海外派遣研修(夏期・春期)の際、学生に同一種類の海外旅行保険に加入させた。また、海外派遣研修引率教員にも同様の海外旅行保険に加入してもらった。 ・新規受入及び定例5月の東京出入国在留管理局に対する留学生在籍者報告時に留学生の在籍状況を把握し、遅滞無く報告した。 定例の11月にも遅滞無く行い、その際に留学生の在籍状況・資格外活動取得状況を把握した。	◎:既に達成している	
2. 1 一般管理費等の効率化 一般管理費の縮減に必要な業務運営の見直し、光熱水量などの縮減及び業務の効率化の推進を図る。	2. 1 一般管理費等の縮減については、令和6年度予算の所要額調べの際に「継続して実施してきた事項についても見直しを行い、廃止や縮小の検討を行う」旨依頼して、真に必要な事業経費の申告を促したうえで、ヒアリングを実施し、予算計画を策定することで適正かつ効率的に一般管理費の縮減に必要な業務運営の見直し、経費の削減を図った。 また、光熱費高騰に伴う省エネの徹底について、6月19日開催の第4回企画運営会議において、「電気・ガス使用量の抑制のための具体行動について了承され、改めて省エネの徹底を依頼した。	◎:既に達成している	
2. 2 給与水準の適正化 ※該当なし		該当なし	

長岡工業高等専門学校 令和6年度 年度計画実績報告

令和6年度 年度計画 (高専名:長岡工業高等専門学校)	進捗	達成状況	課題
2. 3 契約の適正化 契約は計画的に行うこととし、原則として一般競争入札等によることとする。また、法人本部作成の「契約事務等の取扱について」などを活用し、契約内容の競争性、透明性の確保に務める。	2. 3 契約は計画的に実施し、原則として一般競争入札等により実施している。また、機構作成の「契約事務等の取扱について」を活用し、契約内容の競争性、透明性の確保に努めた。引き続き、適正化を図る。	◎:既に達成している	
2. 4 情報通信技術を活用した業務の効率化 ① 教育における業務の効率化と教職員の業務効率化の全学的見直しを継続し、情報システムの利用に関する計画的な研修を実施する。情報システムの適切な管理方法についても研修を実施する。 ② 情報通信技術を活用した就職指導・支援業務の効率化を狙う。まず、求人資料受付業務の電子化を検討する。今年度は、全学的な受付フローの現状を分析し、電子化実現のための要件定義を行う。次に、求人企業と就職担当者との面談に関する調整業務の効率化を検討する。今年度は、その効率化を実現するために最適なクラウドサービス等のツールを選定する。 ③ グループウェアやMicrosoft365等のツールの使い方の研修を実施する。	① 教育における業務の効率化は出席簿管理システムの高度化や欠席届の流れの簡明化等が実施されている。教育業務への時間の確保という点でも委員会等議事録書式の明確化をはかった。また職員の委員会陪席人数について検討している。情報システムの利用に関する教職員への研修は総合情報処理センターやセキュリティ管理室で開催されており、その受講を持って教職員は適切な管理方法を学んでいる。 ② 求人資料受付業務の効率化のため、MS365を用いた電子求人システムを開発した。また、求人企業と就職担当者との面談に関する調整業務の効率化を目的として、最適なクラウドサービスのツールを選定した。 ③ グループウェアやMicrosoft365等のツールの使い方の説明を実施した。	◎:既に達成している	
3. 予算(人件費の見積もりを含む。)、収支計画及び資金計画 3. 1 戦略的な予算執行・適切な予算管理 教育研究機能の強化に資する取り組みを重点に推進するため、予算編成にかかる基本方針を定め、予算の効率的かつ効果的な学内配分を行う。	3. 1 予算編成及び執行にあたり、6月19日開催の企画運営会議において、「令和6年度予算編成に係る基本方針」等策定し、本方針に基づき、令和6年度予算配分を行った。 各予算科目の配分にあたり、所要見込額についてヒアリングを実施し、効率的かつ効果的な予算配分を行った。	◎:既に達成している	
3. 2 外部資金、寄附金その他自己収入の増加 3. 2-1 ・科研費等の競争的外部資金獲得を目的とした講習会等を実施する。 ・地域創生教育研究室がコーディネーターや起業支援人材と協働し、国や県の補助金を積極的に活用し、受託研究や共同研究の実績増に繋げる。 ・本校技術協力会と緊密な連携を図り、会員企業数を増やし、本校の教育研究活動資金の獲得に繋げる。 ・教員の研究活動に従事できる時間の確保について検討を行う。 ・大型外部資金を獲得した教員の支援体制について検討する。 3. 2-2 令和4年度に寄附増進方策として実施した本校ホームページの寄附金案内ページについて、寄附金による活動の成果がわかるような実績の掲載を検討する。また、申込み方法、決済方法等、寄附者にとってより寄附を行いやすい仕組みを検討する。	3. 2-1 科研費等の競争的外部資金獲得を目的とした講習会(科研キャンプ)を実施し、コーディネータは申請書のポンチ絵作成支援を行った。 ・地域創生教育研究室がコーディネーター等と協働し、国や県等の大型外部資金申請のためのヒアリングを行った。 ・R5年度末の技術協力会の会員企業数は382社だったが、R6年度末時点で417社まで増加した。 ・教員の研究活動に従事できる時間の確保について検討を行った ・大型外部資金(1件1000万円以上)を獲得した教員の校務負担軽減を行った。 3. 2-2 寄附の活動実績の掲載方法を検討し、次年度以降着手の予定	◎:既に達成している	
3. 3 予算該当なし		該当なし	
3. 4 収支計画該当なし		該当なし	
3. 5 資金計画該当なし		該当なし	

長岡工業高等専門学校 令和6年度 年度計画実績報告

令和6年度 年度計画 (高専名:長岡工業高等専門学校)	進捗	達成状況	課題
4. 短期借入金の限度額 4. 1 短期借入金の限度額 ※該当なし		該当なし	
4. 2 想定される理由 ※該当なし		該当なし	
5. 不要財産の処分に関する計画 該当なし		該当なし	
6. 剰余金の使途		該当なし	
7. 1 施設及び設備に関する計画 ①-1-1 「国立高等専門学校機構施設整備5か年計画」等に基づき、建物の改修計画を立て、給排水、電気・ガス等の基盤設備の適切な整備計画を盛り込む。 施設の状況を調査、把握して、早期にキャンパスマスタープラン、個別施設計画の見直し、更新を行い、戦略的なリノベーションによる機能向上と長寿命化を図りつつ、建物及び基幹整備を計画的に推進する。	①-1-1 照明設備の資料収集・現況調査を行い、年度整備計画を策定。予算要求中の5号館改修工事に関して、教員と内容を再度確認し、要求額を精査し、今年度の計画部分を達成した。	◎:既に達成している	
② 法人本部より提供される「実験実習安全必携」の電子データを製本して学生に配付し、各学科において実験・実習での学生指導に活用する。	② 新入生に「実験実習安全必携」の冊子を配付した。第1回教務委員会において、授業における「実験実習安全必携」の活用のための学生指導を依頼した。	◎:既に達成している	
③ 学生を中心に考えた特色あるキャンパス環境の創出に資する整備計画を策定する。ステークホルダーにも魅力ある学びや憩いの場づくりの整備を推進する。	③ 教員により、R6年度に本事業の準備段階として、本校独自の課外活動制度「プレラボ」を活用し、キャンパスマスタープランの骨格検討のための学生チームを編成。キャンパス環境に関する予備調査等を踏まえ、R7年度事業の「特色あるキャンパス環境の創出」として予算要求した。	◎:既に達成している	
7. 2 人事に関する計画 ①-1 課外活動の外部コーチ活用、寮務業務のアウトソーシング等をさらに促進する。 ①-2 教職員ともに積極的に人事交流を進め多様な人材の育成を図るとともに、各種研修を計画的に実施し資質の向上を図る。	①-1 今年度教員公募を実施し採用者が決定した1名については他機関勤務経験を持つ者となる。 ①-2 常勤職員の人事交流として、長岡技術科学大学と1名の相互交流を行っている。来年度も職員1名を派遣することが決定した。	◎:既に達成している	

長岡工業高等専門学校 令和6年度 年度計画実績報告

令和6年度 年度計画 (高専名:長岡工業高等専門学校)	進捗	達成状況	課題
②-1 教授等の上位職ポストの利用、学科に依存しない全学的な教員ポストの運用で人員枠を効率的に配置する。 ②-2 教務主事が所管する4つのワーキンググループ(グローバルエンジニア育成事業WG、COMPASS5.0事業WG、スタートアップ教育WG、AIR Tech WG)を編成し、特色ある教育研究活動の伸長・深化を推進する。また、法人本部との併任者、国立高専教育国際標準(KIS)事業の連携者等において法人本部との人事交流の回数と人数を増やし、積極的な交流を推進する。	②-1 教員公募の際には、上位職ポストの利用、学科に依存しない全学的な教員ポストの運用を常に意識して発出しており人員枠を効率的に配置している。 ②-2 教務主事が所管する4つのワーキンググループでは教育高度化のために、COMPASS5.0事業に関するセミナー等の機会を利用して他高専の教員と積極的な情報交換を行っている。また、法人本部との併任者、国立高専教育国際標準(KIS)事業の連携者等において法人本部との人事交流の回数と人数を増やし、積極的な交流を推進している。	◎:既に達成している	
③ 教授等の上位職ポスト、学科に依存しない全学的な教員ポストを弾力的に運用して優秀な若手教員を確保する。	③ 必要に応じて教授等の上位職ポスト、学科に依存しない全学的な教員ポストを弾力的に運用して優秀な若手教員を確保している。	◎:既に達成している	
④-1-1 専門科目担当教員の公募の際、応募資格として博士の学位を有することを原則とする。 ④-1-2 専門科目を担当する本学の教職員のうち、博士号を持たない者に学位を取得させるための取組を推進する。	④-1-1 今年度公募を実施している専門科目教員公募4件について、博士の学位を有する者を応募資格とした。ただし、応募者数が少ない状況が続いているため、採用時に博士の学位を取得見込みである場合は任期付採用としている。 ④-1-2 先輩教員(メンター)による新採用教員を支援する制度を活用する。博士の学位を持たない者については、面談を行い、必要に応じて業務負担軽減を行っている。	◎:既に達成している	
④-2 クロスアポイントメント制度での双方向異動での課題とその対策を検討する。本制度での受入れについて検討する。	④-2 複数の教員公募を行ったが、令和7年度当初採用者が1名に留まり、クロスアポイントメントへの流動的な配置の検討に至らなかった。	×:年度末時点で達成できない	令和6年度中または令和7年度当初採用として、7件の教員公募を実施したが、採用に至ったのは2件に留まった。今年度退職者の欠員補充も含め、教員の確保が課題となっている。
④-3 定期的にライブステージに応じた懇談会の開催やアンケートを実施し、職場環境に関する情報共有や改善提案の収集に努める。また、ダイバーシティ事業を活用し、女性教員の働きやすい環境整備を継続的に進める。	④-3 教職員懇談会を12月に2回開催した。「働き方改革」にスポットを当て、公私問わず日頃教職員が課題に感じていることや工夫していること、ライフハック・ワークハックを話し合い、共有する機会とした。JSTダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)本事業の取組にて相談員の配置(長岡技科大との共同利用)、研究補助員制度、ライフイベント復帰支援制度を構築し、運用した。	◎:既に達成している	
④-4-1 第4期グローバルエンジニア育成事業などで採用した外国人教員(R3年度、常勤雇用)を活用し、第5期グローバルエンジニア育成事業における実施項目の1つである英語による専門科目授業の推進を図る。 ④-4-2 学内で採用した外国人教員のポテンシャルを活用して理数系科目や専門科目の英語授業の推進強化を図る。国際交流やISATE等への派遣等、国際的活動の支援を行う。	④-4-1 第4期グローバルエンジニア育成事業などで採用した外国人教員(R3年度、常勤雇用)を活用し、第5期グローバルエンジニア育成事業における実施項目の1つである英語による専門科目授業の推進を図り、昨年度に引き続き専攻科開設科目「グローバル・ディベート」を担当した。 ④-4-2 外国人教員はエンジニアリングデザインや英語ディベート等の専門的科目をすでに担当している。国際交流学生派遣の引率、ISATE講演発表の実績もあり十分に国際的活動の支援を行った。	◎:既に達成している	

長岡工業高等専門学校 令和6年度 年度計画実績報告

令和6年度 年度計画 (高専名:長岡工業高等専門学校)	進捗	達成状況	課題
④-5 ダイバーシティ推進室室員を研修会や講演会に積極的に参加させ、室内で情報を共有する。また、ダイバーシティ推進室主催の講演会を開催し、男女共同参画やダイバーシティに関する意識啓発を図る。	④-5 12月13日開催の長岡技術科学大学ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)シンポジウムに出席し、室内で情報を共有した。	×:年度末時点で達成できない	・学内で開催される研修会等が多いため、推進室主催の講演会は機構本部主催のものに近年は置き換えていたが、今年度は開催がなかったため実施できなかった。
⑤ 個人の事情にも配慮した教職員の人事交流の活発化とその仕組みを検討する。資質向上のための各種研修を計画的に実施する。	⑤ 対面に限らないオンデマンドによるFD・SD研修も企画し、実施した。人事交流については、事務職員の長岡技術科学大学との交流を実施中である。	◎:既に達成している	
(2)人員に関する指標 常勤職員の能力向上のための取組を推進することで、業務の一層の効率化・省力化を行う。	(2) 事務部内での課題を共有し、改善につなげる取り組みを始めた。職員有志での勉強会も立ち上げ、今後の業務効率化・省力化進展が期待できる。	◎:既に達成している	
7. 3 情報セキュリティについて	① ・Microsoft365容量上限の変更対応 ・AXIOLEのファームウェアのアップデートとeduroamの適切な管理設定 ・DNSレコードの削除漏れによる不適切なWebサイトへの誘導確認 ・令和6年度サイバーセキュリティにおけるセルフチェックリストの実施 ・電子メールのなりすましの防止策を実施した。 ・機構本部主催の研修に参加して次期高専統一ネットワークの検討を行った。	◎:既に達成している	
② デジタル・トランスフォーメーションに持続的に取り組むため、機構本部主催の研修に参加し、人材確保を図る。	② ・令和6年度 情報セキュリティe-Learningについて本校教職員が受講済み ・機構本部主催の研修に参加して人材確保を図った。	◎:既に達成している	
③ 校内システムの情報セキュリティ対策について、情報セキュリティ監査の結果を踏まえて引き続き改善を行う。	③ 11月に情報セキュリティ監査を受審した。また、受審に際して情報セキュリティ対策について改めて見直しを行った。	◎:既に達成している	
④ 機構本部主催の管理職を対象とした情報セキュリティトップセミナーなど職責等に応じて必要となる情報セキュリティ教育に参加する。さらに教職員に対して情報セキュリティ研修を実施する。機構本部主催のインシデント対応訓練等に参加して、教職員の情報セキュリティ意識の向上に努める。	④ ・第1回情報セキュリティトップセミナーへの参加済み ・機構本部のインシデント対応訓練に参加して教職員の情報セキュリティ意識の向上に務めた。	◎:既に達成している	・インシデント対応訓練の結果、開封率が全高専平均を上回ったこと、報告率が60%であったことから引き続き、情報セキュリティ意識の向上のための啓蒙活動に取り組んでいく必要がある。
⑤ 機構本部の最高情報セキュリティ責任者及び情報戦略推進本部情報セキュリティ部門の連携による情報セキュリティ対策等について本校に適切に導入を図る。	⑤ ・Microsoft365容量上限の変更対応 ・AXIOLEのファームウェアのアップデートとeduroamの適切な管理設定 ・DNSレコードの削除漏れによる不適切なWebサイトへの誘導確認 ・令和6年度サイバーセキュリティにおけるセルフチェックリストの実施	◎:既に達成している	
⑥ 機構本部CSIRT等によるインシデント内容及びインシデント対応の情報共有を受け、本校の教職員に周知するとともに、初期対応徹底のために「すぐやる3箇条」の教職員、学生への周知を継続して行い、情報セキュリティインシデントの予防及び被害拡大を防ぐための啓発を実施する。	⑥ 機構本部CSIRT等によるインシデント内容及びインシデント対応の情報共有を受け、本校の教職員に周知している。初期対応徹底のために「すぐやる3箇条」の学生への周知を行った。情報セキュリティインシデントの予防及び被害拡大を防ぐための啓発のために、本校主催の情報セキュリティ研修を実施した。今回の参加者数が89名であり、昨年度の参加者数106よりも減少した。	◎:既に達成している	